

## 「日中植林・植樹国際連帯事業」2018年度中国高校生訪日団 参加者の感想（抜粋）

### Aコース 第1分団

○日本は自国の地理を研究し、科学的で精巧な設備を採用している。中には中国の防災対策を啓発するような発明もたくさんある。これらの考えを持ち帰り、環境保護や防災の話し合いに参加し、両国民の知恵を集結して中日両国の防災事業に新たな道を切り開きたい。

活動期間中、2つの高校を訪問して植樹活動に参加し、両国の学校の造りや管理の仕方に大きな違いがあり、それは両国の伝統的な民家や文化習慣と切り離せないものだと感じた。授業に参加して異国の先生や学生の熱意と魅力を感じた。中日の授業パターンには、重複するところもあれば補い合えるところもあると思う。教育や授業方法に関する両国の交流を増やし、長所を取り入れ短所を補い合っていくべきだと思う。

福山市で一泊二日のホームステイに参加した。日本の伝統家屋は敷地面積が小さく、密集しており、部屋は風も声も通ると感じた。帰国したら、日本の伝統建築、食、旅行、服飾等、いろいろな文化を周囲の人たちに伝えたい。皆が日本のことを知って日本に行くように勧め、中日友好を支持し、守って行けるようにしたい。

○今後の仕事や生活において、環境保護と防災をしっかり意識し、環境を守るという理念をたしなみにすべきだと思う。買い物にマイバッグ、生活ゴミの分別・回収・再利用、低炭素生活等、環境に優しいことを生活習慣にすべきだ。たとえ比較的安全な所に住んでいても、いつも防災を意識し、転ばぬ先の杖で防災減災の段取りをしておく必要がある。防災意識を高め、公共の場所や施設を充分利用し、政府と社会福祉機構、自治体、環境保護局の協力関係を強化して、できる限り損失を減らさなければならない。中国に帰ったら、周囲の人たちに環境保護や地球を大切にすることを広め、どのように廃棄物を処理するのか、どのように地球温暖化を抑制するのか等、自然環境と切り離せない環境保護対策を伝え、皆が新しいエネルギー、クリーンエネルギーを知って、石炭や石油の使用を減らすよう呼びかけたい。一高校生として、私たちには環境を守り、快適で安全な世界をつくるために、できる限りのことをする責任と義務がある。

○植樹活動で環境保護意識が高まり、環境保護の大切さを感じた。また、防災施設を視察して自分を守る意識が高まり、災害の中でどうやって自分の身を守ったらよいか分かった。

今回の活動に参加してたくさんの収穫があった。日本の高校生やホストファミリーとの交流で、彼らの熱意と友好を感じた。楽しい笑い声と共に一泊二日の時を過ごし、友情のしるしにプレゼントを交換した。私の経験したこと、日本人たちの熱意と友好を周囲の人たちに話し、中日の友好関係を推し進めようと思う。

日本の植生被覆率は高く、道路の両脇には樹木が植えられ、緑の葉が賑やかな街に彩りを添えている。日本の防災は充実している。その中で、一番思いもしなかったのは下水道をトイレに使えることだ。普段は下水道として使用し、災害発生時にはトイレになる。たくさん視察した中で一番印象深いのは水島埋立処分場だ。先に可燃物を焼却し、燃えかすは海を囲った所に埋め立てる。この方法だとゴミを埋めるプレッシャーが軽減されるし、焼却の熱で発電して資源の利用率を高めることができる。また、埋め立てて陸地になった所には家を建てることもできる。この方法はたくさんの利点を人々にもたらす。

今回の活動では多くの収穫があった。見聞きしたこと、感じたこと、考えたことを利用して、将来私たちの地球のために貢献したい。

## Aコース 第2分団

○皆がとても意欲的に植林活動に参加したことはとても良かった。木を植える前に、植樹の重要性や植える木について説明を聞き、とても意義のあることだと思った。防災や環境保護に関する視察では、セミナーと実際の体験を合わせ、より理解を深めることができた。

今回の活動で印象深いのは、日本の環境保護や防災に対する意識だ。日本人はゴミ分別や防災についての意識や経験値が高い。街中や校舎のゴミ箱は皆分類型になっており、各ゴミは種類によってきちんと分類してゴミ箱の中に捨てられる。防災普及活動もうまくなされており、東京臨海広域防災公園では自然災害の怖さを体感し、更に防災の大切さを感じた。また、日本はリサイクル率がとても高く、廃棄物を有効利用して新たなエネルギーにしている。柳月菓子工場の太陽光発電は、なんと工場全体の70%の電力を供給しており、予定では2年後に供給率100%にするそうだ。これは疑いなく環境保護における成功であり、私たちはこういう優れたところを参考にして学ばなければならない。帰国したら周りの人たちに日本の環境保護と防災の優れた点を話し、積極的に学び、手本にして、私の祖国をもっと良くしたい。

○日本人は木を植えて森を作ることをととても重視しており、それによって環境を改善し、人類に利益をもたらすと考えている。日本人の環境保護意識は強く、ほとんどの人がゴミ分別を意識しており、無闇にゴミを捨てることは少ない。防災面では安全意識が高く、公共の場所にも避難所があり、公共の施設を避難用に使うことができるのはすごくいいことだと思った。

植樹活動を通して木を植えることの大切さを知り、それが人類に多くの利益をもたらすことが分かった。美観作用のほか、空気浄化や環境美化、防災の作用もある。防災面では、日本の学校の災害知識教育が国民安全教育全体の重要部分であり、防災関連の授業があるほか、政府の指導員が学校に来て防災教育や防災活動を行う。中国と同じく、日本の学校でも避難訓練があり、家や学校にいる時、どんな場所に避難すれば良いのか等を教える。いくつかの防災機関では子供たちに地震の揺れを体験させる。子供たちはこのような教育のもとで少しずつ、段々と防災意識を形成していく。日本政府は年に数日、防災教育の日を定め、災害で亡くなった人々を思い、災害が生活環境にもたらす危害や防災の大切さを教え、国民に災害知識教育を普及している。これは手本に値する。帰国したら、進んで周囲の人たちに日本の植林植樹に対する意識や防災意識のことを伝えたいと思う。

○今回の訪日で、植樹活動、環境保護と防災、その他視察、交流活動を通して多くのことを学んだ。また、日本がどのようにゴミを分別するのかも学んだ。ゴミは回収可能なゴミとプラスチックゴミに分類される。ここが中国と違うところで、中国では回収可能なゴミと回収不可能なゴミに分類する。この点は周囲の友達に教えたいと思う。今回の植樹活動は私にとって初めての環境保護活動への参加であった。以前、中国で行われた時には参加する機会が無かったが、今はこの植樹活動を通し、木を植える楽しみや環境保護の喜びを感じた。環境保護や防災に関する視察を通し、日本の環境と防災の意識の高さを知った。このことは周囲の友達に教えたい。今回の訪日は大きな収穫があった。機会があればまた来たいと思う。

## Aコース 第3分団

○今回の活動で畳の生活を体験し、日本の高校にはいろいろな科目があることを知り、東京臨海広域防災公園で防災体験をした。周りの人たちと一番共有したいと思ったのはゴミの分別だ。ある場所のゴミ箱で瓶がとても細かく分別されていることに気づいた。ペットボトル、ガラス瓶、空き缶、ペットボト

ルの蓋の4種類だ。こうすれば回収作業が楽だし、資源回収率も上がる。日本の防災対策も大変参考になる。防災公園は被災者の臨時避難所になり、中の公共施設は災害時に素早く“変身”できるようにうまく改装され、スペースや資源の無駄が無い。また植樹活動では日本の高校生と共に積極的に取り組み、進んで交流した。環境保護意識を高め、厚い友情を築き、中日の友好関係を前進させた。

○今回日本に来て行った植樹活動、環境や防災に関する視察や交流はとても意義深いことだと思う。セミナーで話を聞き、東京臨海広域防災公園を見学して、日本人は災害に遭っても取り乱したりしないのだと感じた。帰国したらこの防災の経験を皆に伝え、私たちの国をもっと良くしたい。

日本の防災施設を視察して、防災対策が進んでいると感じた。日本の防災対策は世界一だと言っていると思う。私たちの国中国は、世界最大の発展途上国だ。防震減災の取り組みは絶対必要だ。この面ではしっかり日本に学ばなければならない。例えば、かまどになるベンチやトイレになるマンホールを取り入れるとか、実用的なものは全て参考になる。日本の高校生と交流して、彼らの熱意と温かさを感じた。彼らが私たちの学校に視察に来た時には、必ず温かくしっかりもてなしたい。帰国したら友達に、日本の防災のことや、日本の高校生との厚い友情を伝えたい。中国と日本は一衣帯水の隣国だ。将来の国際関係は、私たち若者にかかっている。だから私たちはこの友情をずっと繋ぎ続け、私たちの美しい故郷がもっと良くなるように、災害に遭っても取り乱すことがないようにしたい。

○今回日本を訪問し、環境や植樹、ゴミ分別に対する日本人の意識の高さを知った。中でもゴミ分別は印象深い。小さな1つのゴミにもあれだけたくさんの分類方法があるとは。1つのゴミを、分類に従っていくつもの部分に分解し、リサイクル効率を上げている。同じく日本人の環境保護意識も記憶に鮮明だ。また、学校訪問では日本の高校生の熱意に感動した。群馬県立藤岡北高校に行った時は、彼らと一緒に農場を見学し、一緒に作業をして友情を深めた。帰国しても彼らと連絡を取り続けたいと思う。同時に、家族や友達に今回学んだ防災の知識を紹介したい。

## **Bコース 第1分団**

○資源節約の面でたくさんのことを学んだ。例えば水資源の循環利用やクリーンエネルギー、水素エネルギーの利用等、とても勉強になった。また防災対策がすばらしい。

今回の訪問で、防災や環境保護がテーマの視察やセミナーに参加し、災害時の命の尊さ、防災の方法、災害時に生命を守る方法を知った。そして分かったことは、大自然の前では人間はあまりにも弱小だということだ。災害を免れることはできないが、備えをして避難することはできる。津波に襲われた小学校を視察したが、体育館が丸ごと津波に流されてしまっていた。これが大自然の恐ろしさだ。

今回の訪日では、身近に感じることもいろいろあった。日本に茶道があるが、中国にもあり、私もお茶を飲むのが好きだ。今回日本に来られて光栄だった。日本の先生や高校生にも是非私たちの国を見に来てほしい。最後に、私たち両国の友情がいつまでも続き、皆さんの国が安泰、平穏でありますように。

○環境施設の視察や津波に関する講話を通し、いろいろな資源をリサイクル活用して発展し続けられることが分かった。また被災状況に素早く適切な対応がなされていると思った。

日本での行程も終盤になった。環境保護と防災に関するいろいろな視察をし、地震や津波の防災についての話を聞き、水資源の浄化や新型水素エネルギーの発展、地震への備え、地震や津波が起きた時の対応について理解することができた。合理的に資源を利用することは国にも環境にもいいことだと感じた。また防災と災害対応の重要性や命の尊さも感じた。私たちは植樹活動と学校交流にも参加したが、植樹活動を通して先輩方の汗と苦労を体感し、木は環境にとって大切なものだと分かった。学校交流で

は各クラスでランチを取り授業に参加した。学校中が親切で、清潔で、学生も友好的だった。彼らと一緒に日本語の文字を書いたりサッカー交流をしたりした。皆グラウンドで汗を流し、果敢に奮闘した。とても楽しく心地良かった。

○このような活動は自然保護意識を高め、防災への理解を深めることができると思う。また日中両国の青少年の友好交流を一層推し進めることができると思う。

植樹活動、環境保護や防災に関する視察、交流活動を通し、新しいことをたくさん学んだ。地震や津波等防災のことをたくさん知り、環境保護の大切さが分かったし、本当の災害が起こった時、人類は大自然の前ではひとたまりもないと感じた。またいろいろな防災の方法を学んだ。良いことは取り入れて、将来自分たちに災害が降りかかった時も取り乱さず、死傷者を最低限に抑えられるようにしたい。また、今後、積極的に、平和で友好的な日中関係の発展に貢献できればと思う。

## **Bコース 第2分団**

○今回の活動で、日本人の環境や防災に対する意識の高さは手本になると思った。私の家は内陸にあり、皆そのような経験は少ないので、私とその意識づけをしなくてはと思う。

周囲の人たちには植樹活動のことを話したい。この活動を通していろいろなことが分かった。

ホームステイの体験は、私に心地よさを与えてくれ、まるで自分の家にいるように感じた。言葉のやり取りは少し不便でも、ホストファミリーの熱意で、思っていたような気まずさは無かった。一緒にクッキーを作ったりバナナの絵を描いたり、すごく面白くてすぐ夢中になっていた。二日目の朝食も豪華で、ホストファミリーの温かい気持ちを感じた。

また高校で交流し、一緒に授業を受けた。活気があって面白い音楽の授業や書道の授業で友達もできた。皆の熱意が私たちの距離を縮めた。私は内気な方だが、この交流で自分の殻を破ることができた。

日中植樹活動はとても意義のあることだ。また参加できる機会があればいいと思う。

○周囲の人たちには日本人の環境や防災に対する意識の高さを伝えたい。日本人は親切で礼儀正しく、環境を重視していると思う。私自身は環境や防災についてそれほど意識していなかったが、この活動を通して考えを新たにした。私は内陸の町に住んでいて災害はあまり無いが、今回はたくさんのことを学んだ。これで今後別の町に行っても、いざという時にも素早く対応できる。ホームステイのお父さんお母さんは私たちを歓迎してくれ、温泉にも連れて行ってくれた。二日目の朝も美味しい朝ごはんを作ってもらい、帰る時には私たちのために、お米や心を込めたおやつまで準備してくれ、最後には一緒に写真を撮った。高校では学生たちが親切で、初めは何を話せばいいか分からなかったが、すぐに話が弾んだ。書道では皆綺麗な字を書いていた。私たちはお互いの名前を書いた。また、一緒に美味しいカップケーキを作って食べたり、午後の英語の授業では、先生が一生懸命英語の交流に気を配ってくれた。授業の後には一緒に掃除をした。最後バスに乗って出発すると、彼らは走りながら私たちに手を振ってくれた。本当に熱い想いを感じた。また日本に来たいと思う。彼らの礼儀や熱意に倣い、立派な人間になりたい。

○見習いたいところ：防災に対する考え方と日本人の防災意識の高さ、対策。

伝えたいこと：日本人の友好や熱意、環境や防災に対する考え方や経験。

感想：ホームステイの家は伝統的な和室で、日本文化を体験することができ、ホストファミリーは皆とても親切だった。

学校訪問では、日本の学生たちが皆友好的で、楽しく交流できた。校内は掃除が行き届き、設備も整

っていた。日本の学生と一緒に音楽の授業を受けた時、日本の音楽の授業の進め方はとても良く、すぐに歌を覚えることができた。植樹も楽しかった。木を植えるのは初めてで、突然心に環境を守るという責任感が芽生え、作業する楽しさを感じた。今回の活動を通して、私は日本人の熱意に学ぶべきだと思った。そしてきちんとした態度で人と向き合い、責任を持って環境を守らなければならない。環境保護、まずはその気持ちからだ。

## Bコース 第3分団

○東京都の防災公園と防災施設は印象深い。ゴミ分別等、環境保護対策が良くできている。

私たちが訪問した学校は以前から学校内で植樹活動をしているというわけではないようだった。植林植樹は一朝一夕で完成するものでも、一代限りの苦勞で後は楽というものでもないと思う。私たちの学校は互いに環境保護を重視し、若者から始め、続けて行くという考えを持ち、森林資源を使うと同時に植林植樹の大切さを忘れてはならない。双方の代表学生と一緒に植えたあの木は、私たちと日本の高校生の友情の印であり、環境を守るという私たちの決心の表れでもある。また、友好的でユーモアある湧心館高校の校長先生も印象に残る。福岡県立三池工業高校と熊本県立湧心館高校で本当に楽しい時間を過ごした。

○日本は災害の多い国であり、緊急警報や避難には独自のやり方がある。普段、特に防震や減災を意識していなかった私だが、多くの知識を得ることができた。

今回の訪問は環境保護と防災をテーマにした中日高校生の友好交流活動だ。私は大地震がもたらした災難を知り、亡くなった方を悼んだ。時代は絶え間なく進み、幾多の自然災害を経験してきた日本人たちは我慢強く微笑んで、被災の経験から科学的な減震技法を開発し発展させた。環境を愛する私たちと同じように、日本には環境保護の面でも独自の方法があり、それをとても重視している。私たちはゴミ分別をするだけでなく、日本人に倣って子供にもいろいろ教えなくてはならない。中国に帰ったら周りの友達に環境保護や災害時に生きのびる意識を持つように伝えたい。

○この訪日で環境保護や防災のことを理解した。まず、防震減災のいろいろな方法は見習うに値するものだ。例えば公園のベンチの下にかまどを作る等、当事者の目線で考えてある。環境保護面ではゴミ分別からたくさんヒントを得た。

今回の訪日はハードだったが感動的で忘れられない経験だ。以下、簡単に感想を述べたいと思う。

まず、日本は環境保護や植樹の面が素晴らしいと思う。道路にゴミは無く、店や車も清潔で、皆のために心地良い環境を作ろうという人々の努力が現れている。このことは私の環境保護、ゴミ分別重視の意識を高めた。日本の緑化は美しい。植樹の時、両国の学生は仲良く心を込めて木を植えた。その時、私は共に世界に緑を添える意義を感じた。

続いて、人々の熱意あふれるもてなしには心から感謝している。ホームステイ先に着いた時、おばさんが団子を用意してくれていた。後で分かったのだが、この手作り団子は包んで市場で売っているようで、その気持ちの若さに感動した。日本人はとても細やかで至れり尽くせりの気配りをしてくれる。例えばホストファミリーのおばさんは、私たちが寒いだらうと、サイズの合う上着と懐中電灯を用意してくれたし、交流した学校で私たちのために飲み物や食べ物が用意してあったり、通訳さんが毎日ミネラルウォーターを用意してくれていたりと、そういうことに温かさを感じた。

この有意義な時をしっかりと心に刻もうと思う。家に帰ったら、見聞きしたことを友達に話したい。日本の良いところを見習い、交流しながら長所を取り入れ、短所を補い合っていきたい。